

I 昭和56年気象経過と特徴

1. 昭和56年の気象経過

4月から10月の天候は著しく変動が大きく、特に降水量は極めて特徴的な経過をたどったが次のように要約される。

気温は4月中旬から7月上旬の間に低温が続き、特に5月中旬、同下旬、6月上旬では平年に比べ3.4℃から4.5℃も低い異常低温であった。その後7月中旬に至り天候が回復し、この期間では平年より3.2℃高く推移した。しかし、7月下旬以降は再びやや低温に経過した。秋季の天候は比較的良好でやや高温に経過したが、9月上旬は一時的に著しい低温であった。

日照は春季で持続的に著しく寡照であった。その後7月下旬で一時的に平年並以上に推移したものの全期間を通じて平年並以下の日照で経過した。

降水量は4月から6月半ばまでは比較的少く推移したが、6月下旬以降は多雨となり、降水日数も増加した。8月に入って台風の影響による著しい多雨があり、9月上旬までの間に数度に及ぶ大雨があった。特に8月3日から5日にかけての降水量は416.5mm(中央農試)に達した。9月中旬以降は比較的少なく、平年並以下で経過した。中央農試における気象経過を図-1に示した。

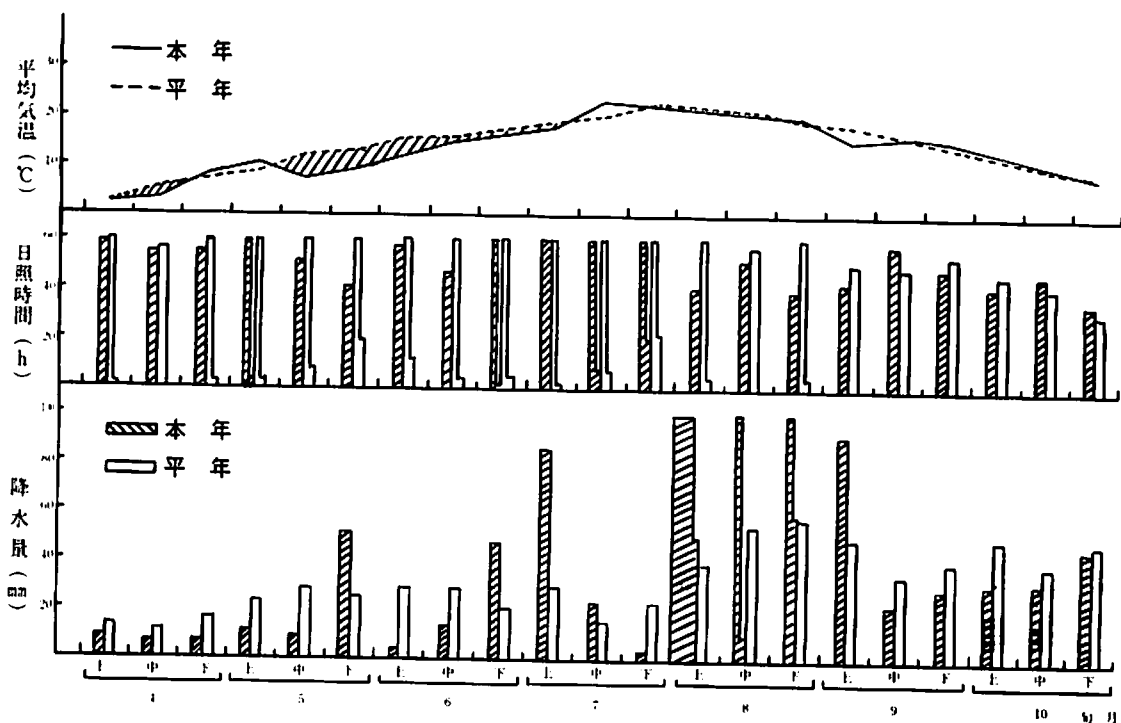


図-1 昭和56年の旬別平均気温、日照時間、降水量と平年対比 (中央農試)

2. 特 徴

(1) 過去の多雨年との対比

昭和56年の農耕期間の降水量平年偏差について中央農試の観測値をもとに検討し、過去における多雨年と比較すると図-2に示すとおりである。

多雨年の記録についてみると昭和41年8月(11~20日)277.4mm, 昭和50年8月(22~23日)157.5mmなどがあるが、多雨の出現時期や量からみて56年に比較的類似している年を求めると48年と50年があげられる。56年の8月多雨は、これら両年と類似しているが降水量が極端に多く、約3倍に達していることが特徴的である。強いて過去の類似年を求めると50年がこれに当るが全般にやや高温であり、作況もやや不良から不良であるから56年より被害は軽い。

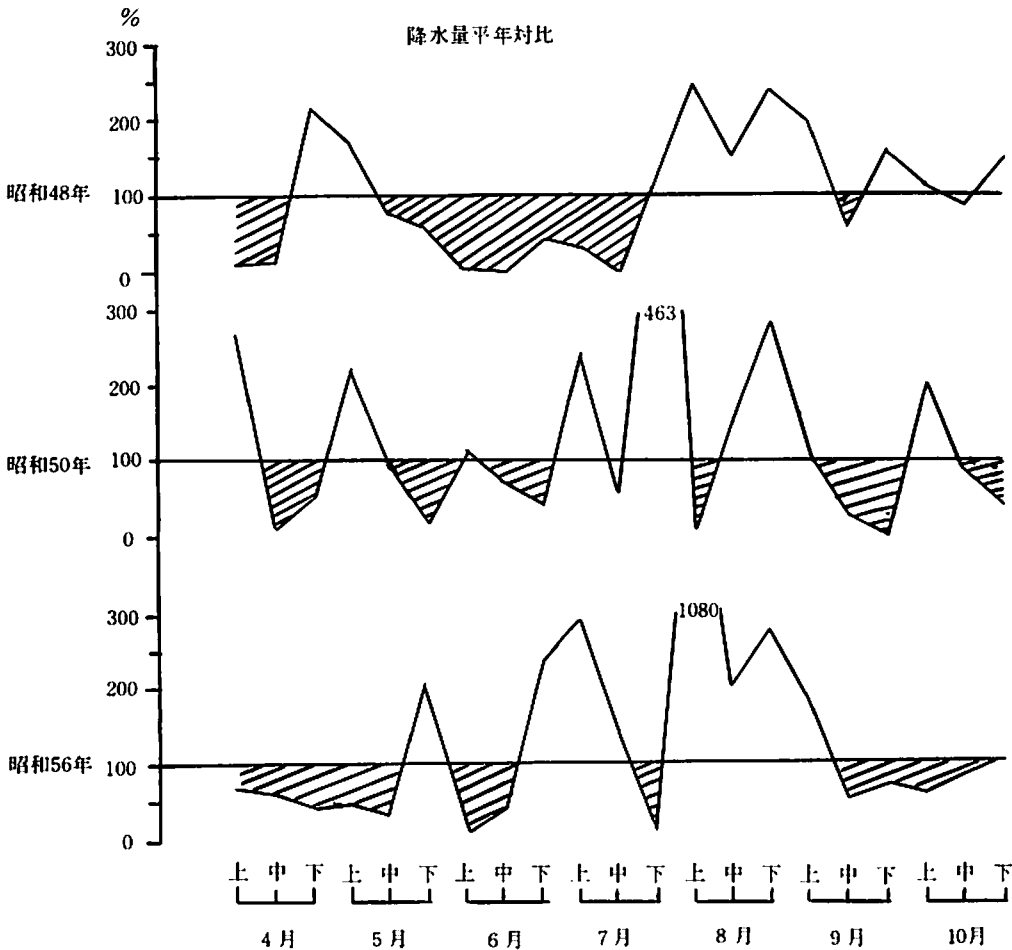


図-2 中央農試における昭和56年気象(平年比)と過去の多雨年との比較(その1)

(2) 特記すべき異常多雨, 低温

1) 5月から7月にかけての異常多雨, 低温

5月下旬から7月末にかけてはオホーツク海高気圧の影響や低気圧の通過, 上空の寒気侵入

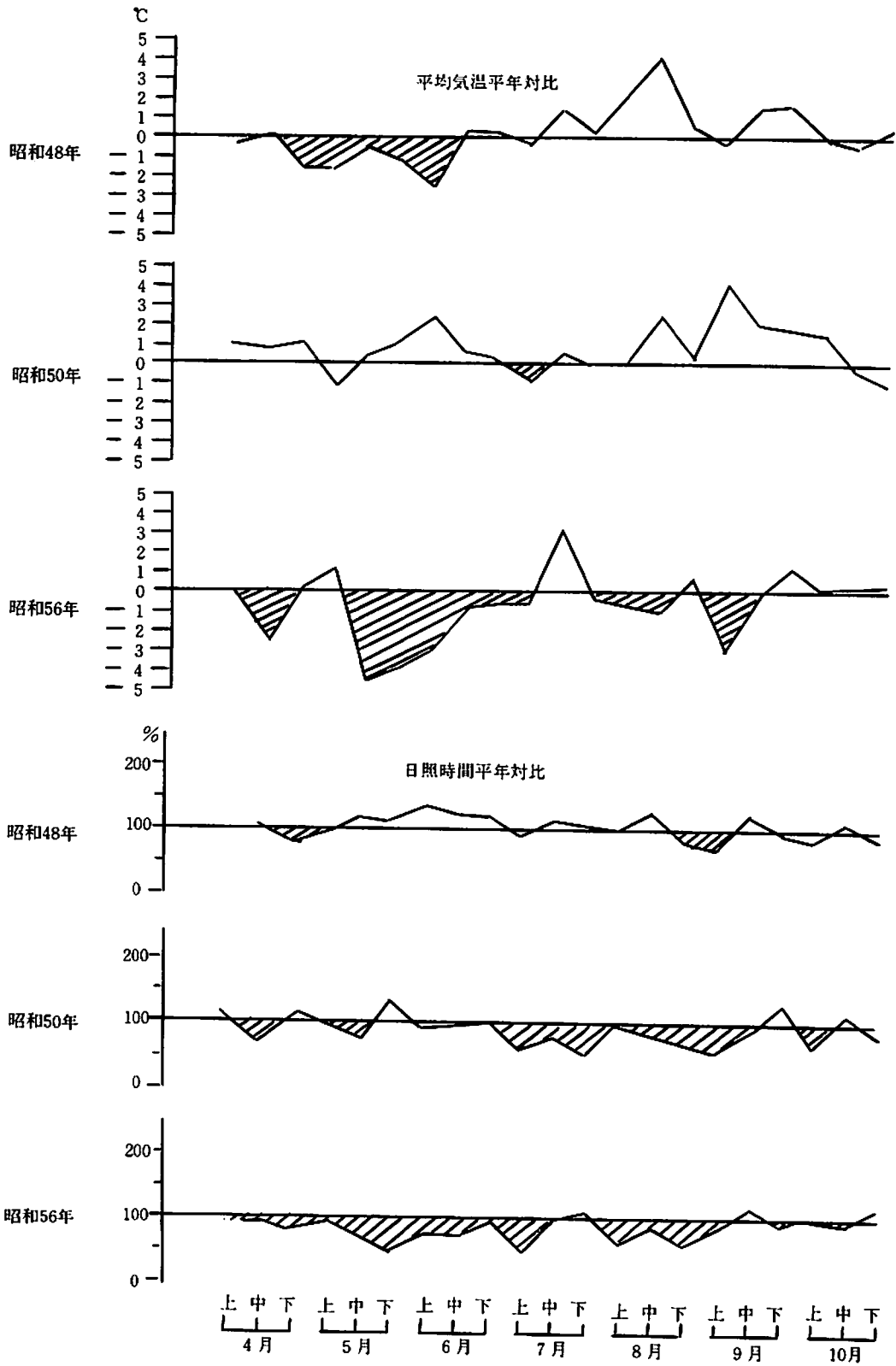


図-2 中央農試における昭和56年気象（平年比）と過去の多雨年との比較（その2）

などがあって大気は不安定となり、しばしば大雨、雷雨、低温など不順な天候となった。特に5月下旬の低気圧の北上は南西部に大雨をもたらし、全道的に暴風雨となった。6月17日から18日にかけての発達した低気圧のため全道的にかなりの降雨があり、7月23日から24日にかけては日本海側に30～80mmに及ぶ大雨雷雨があった。

2) 8月から9月にかけての異常多雨

8月3日から4日にかけて寒冷前線が北海道中央部を北東から南西に横切って停滞したため上川管内北部から南にかけての北海道西部一帯の降水量は150～260mmに達した。一方、4日夜半に台風第12号による雨雲の流入があって前線の雨雲と合流したため5日夜半にかけて各地で強い雨となり、北海道西部一帯で120～300mm、日高から北海道東部で200～300mm、となった。

3～6日の総降水量は全般に100～300mmであるが、多雨域は南空知を中心とする北海道西部一帯(400mm)、十勝西部から日高にかけての地域(350mm)、阿寒山間部(330mm)、斜里町宇登呂付近(430mm)となっている。

中央農試では423.5mmに達し、4日には日降水量189mmと極値を記録したほか3日には落雷による被害もあった。また、この豪雨による被害は特に石狩川集水領域で著しく、土木、農業を中心に水害があり、人的被害も大きかった。

8月21日から24日にかけては低気圧と台風15号の影響で強い雨の区域が北海道南西部一帯に広がった。23日には全道的に暴風雨となり、各地で風の記録を更新したところが多かった。降雨は21日昼すぎから次第に強まり、23日朝には1時間20～50mmと激しくなって、主として胆振、石狩、後志、渡島管内を中心に降り続いた。この間の降水量は登別で334mmを記録し、中央農試では137.5mmに達した。また札幌では日降水量207.0mmに達し、記録を更新した。この大雨と強風により、土木、農業の被害が続出し、人的被害もあった。

9月3日から4日にかけて前線と台風第18号から変った低気圧の影響で渡島、桧山地方を中心とした中部以南では、今夏3度目の大雨となり、各地で100mm前後の降雨があった。中央農試では79mmを観測した。

なお参考までに8月の降水量について巨視的な分布を図—3に示した。これによれば道央、道南を中心に降水量が多く集中していることがわかる。

(3) 気象上の極値の記録

昭和56年の畑作物の雨害を決定づけた8月の降水量の極値を従来のもものと比較してみると表—1に示すように各地とも降水量の最大値を示している。

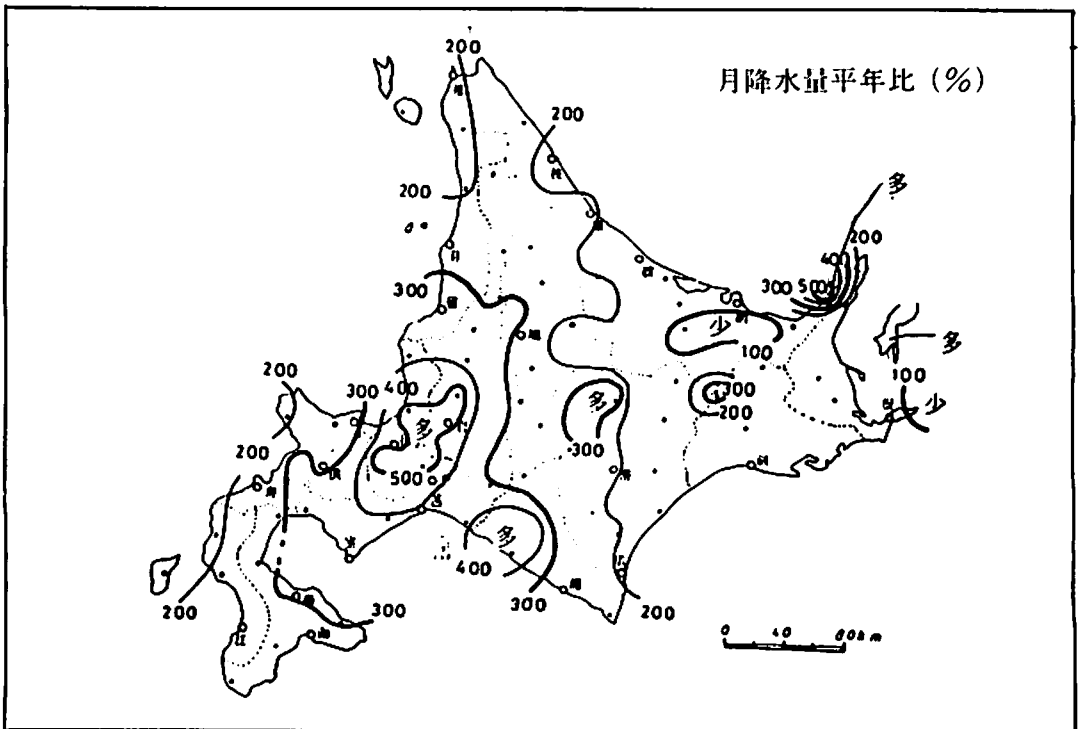
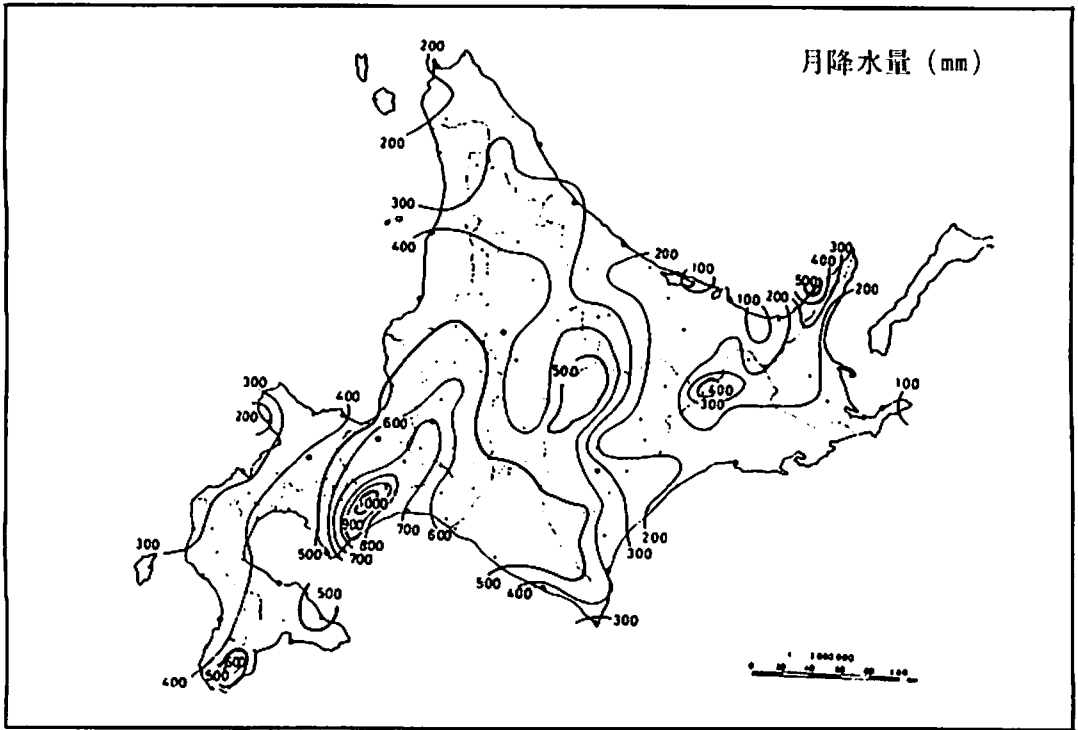


図-3 昭和56年8月の降水量分布図 (札幌管区気象台資料による)

表-1 北海道各地点の8月における降水量極値(中央農試 札幌管区気象台資料による)

56年8月					
項 目	地 点 名	観測した極値	起 日	従来の極値	
月降水量の最大値	羽 幌	402.5 mm		373.3 mm	
"	雄 武	347.0 mm		259.0 mm	
"	留 萌	445.5 mm		332.2 mm	
"	札 幌	644.0 mm		357.4 mm	
"	岩 見 沢	715.0 mm		393.2 mm	
"	中 央 農 試	715.2 mm		294.5 mm	
"	室 蘭	573.5 mm		454.8 mm	
"	苫 小 牧	697.0 mm		501.4 mm	
"	江 差	331.0 mm		313.2 mm	
"	函 館	430.5 mm		390.8 mm	
日降水量の最大値	北見枝幸	123.5 mm	5 日	92.8 mm	
"	雄 武	117.5 mm	4 日	103.5 mm	
"	札 幌	207.0 mm	2 3 日	146.6 mm	
"	室 蘭	140.5 mm	2 3 日	117.1 mm	
"	浦 河	190.0 mm	5 日	145.6 mm	
"	岩 見 沢	262.0 mm	4 日	79.5 mm	
"	中 央 農 試	188.0 mm	4 日	125.5 mm	
1時間降水量の最大値	岩 見 沢	34.5 mm	4 日	29.8 mm	
"	浦 河	38.0 mm	5 日	35.4 mm	